

# DEPARTMENT OF MOLECULAR MEDICINAL CHEMISTRY

分子創薬化学研究室

2020. 6



ORGANIC CHEMISTRY

教授  
佐野 茂樹  
Shigeki SANO

分子創薬化学研究室では「ヘテロ原子の特性を活用する新反応および機能性分子の開発と創薬への応用」を研究課題の柱とし、薬学としての独自性と学際性を備えた有機化学的研究の世界レベルでの展開を目指し、次のようなテーマに取り組んでいます。

- 1) HWE反応を鍵反応とするグリセリン脂質合成法の開発
- 2) Garegg-Samuelsson反応を基盤とするHWE試薬の合成開発
- 3) 安定型イソインドール誘導体の合成ならびに新規蛍光標識剤の開発
- 4) ジケトピペラジンの分子構造特性に基づく機能性分子の創製
- 5) アレニルエステルを基盤とするヘテロ五員環合成法の開発
- 6) ヘテロ環化合物合成を基盤とする医薬品・農薬素材の探索

The main concern of this department is “development of new reactions, functional molecular devices, and new candidate compounds for drugs”.

研究室の情報はホームページ（「分子創薬化学」で検索、またはQRコードで！）に掲載しています。詳細についてのご質問等は、研究室（6階東）をお訪ね下さい。



Members of Our Lab.



2020-06-19 撮影  
薬学部教育研究棟北側にて

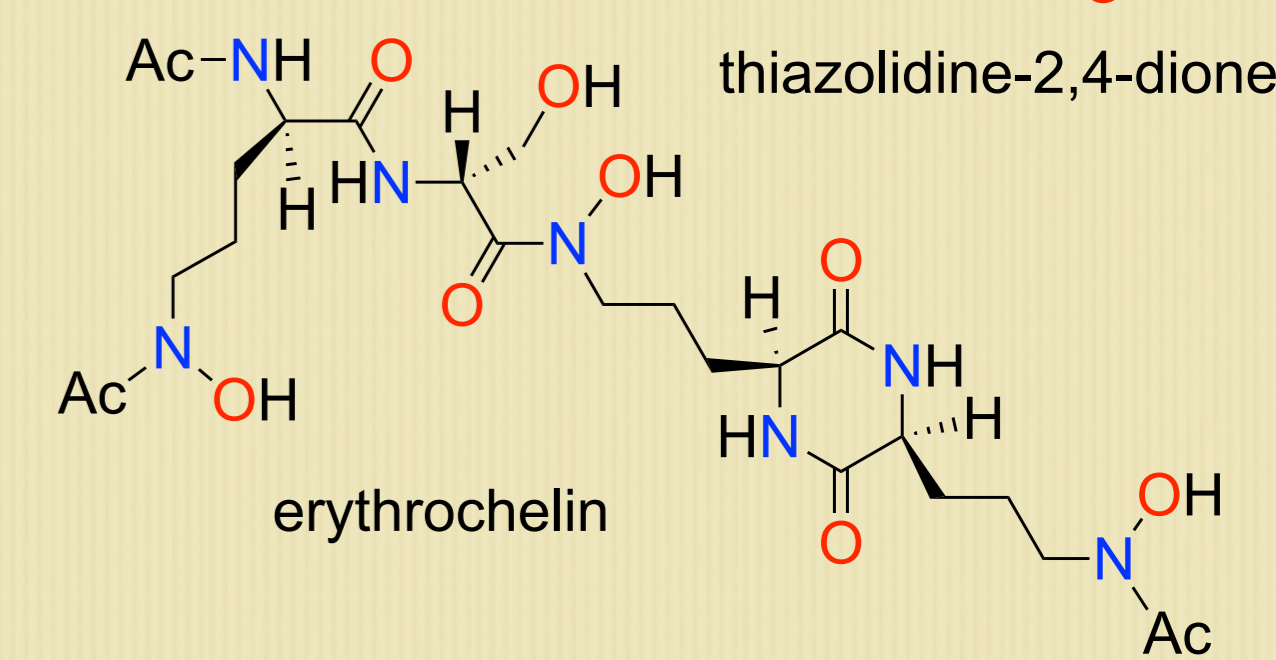
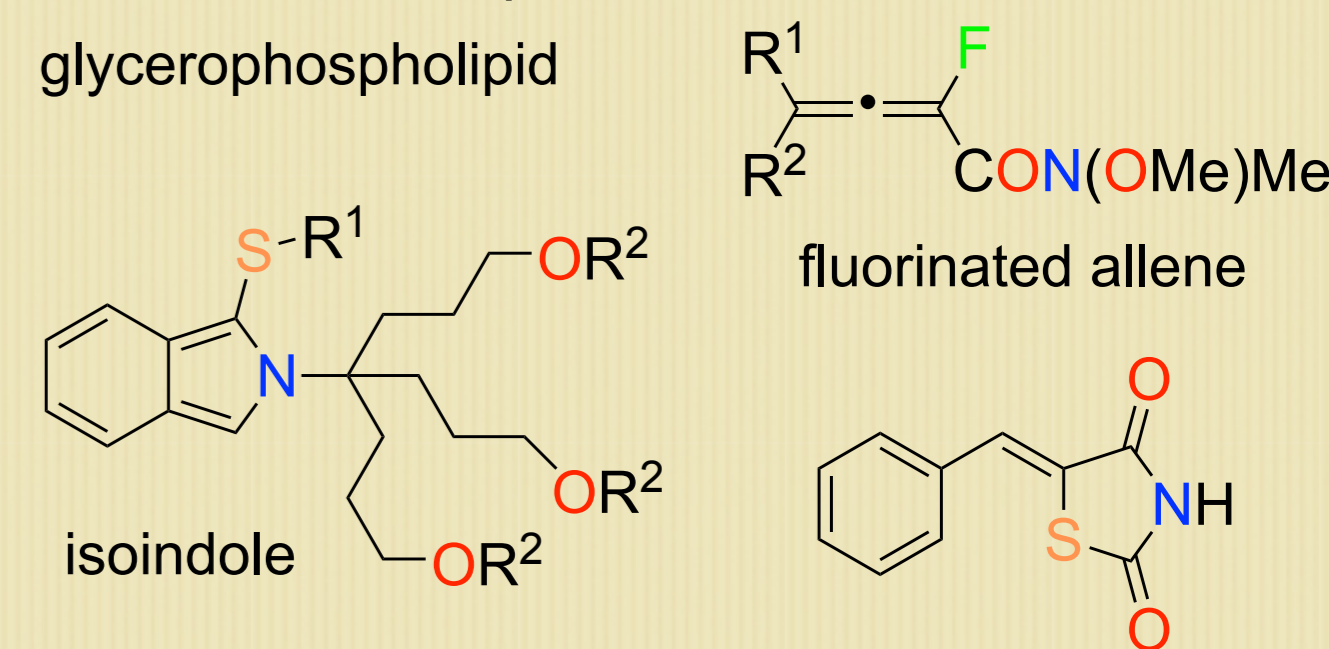
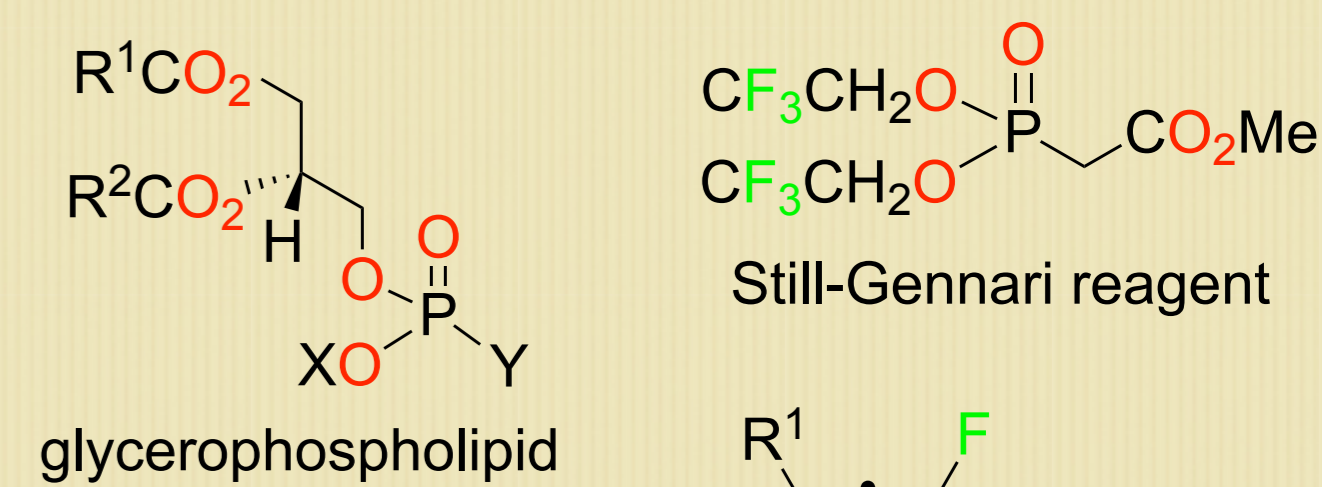
技術補佐員  
竹内 菜穂子  
Nahoko TAKEUCHI

学部 薬学科 6名  
創製薬科学科 6名  
大学院 博士前期課程 7名  
博士後期課程 3名

Key Words 創薬化学  
高選択的反応 機能性分子

助教  
中尾 允泰  
Michiyasu NAKAO

Key Compounds



## 令和元年度修士論文

- ・伊勢谷 怜史 「Garegg-Samuelsson反応を基盤とする混合ホスホン酸エステルの合成研究」
- ・白川 怜王奈 「2-フルオロ-2-ジエチルホスホノ酢酸エチル類縁体を用いる立体選択的HWE型反応の開発研究」
- ・堀越 拳 「アレニルエステルと第一級アミンのアザ-マイケル付加体を用いる三置換ピロールの合成研究」

## 令和元年度卒業論文（薬学科）

- ・野脇 静 「N-ベンジルイミダゾール骨格を基盤とする殺菌・殺虫・除草活性化合物の探索合成」

## 令和元年度卒業論文（創製薬科学科）

- ・今橋 縁 「光学活性(ベンジルチオ)(メトキシ)ホスホリル酢酸メチルの合成研究」
- ・僧津 真之介 「2-(ジエチルホスホノ)プロピオン酸エチルを用いる3-イミノアクリル酸エステルの合成研究」
- ・葉田 滉大 「Pim阻害活性を指向したイミダゾリジン-2,4-ジオン誘導体の合成研究」
- ・岡崎 遼太郎 「アレニルエステルとホスホン酸ジメチルのホスファ-マイケル付加反応の開発研究」
- ・田原 昌和 「ビス(ベンジルチオ)ホスホリル酢酸メチルを用いるアレニルエステルの合成研究」
- ・舟田 遥乃 「(ベンジルチオ)(メトキシ)ホスホリル酢酸メチルを用いるアレニルエステルの合成研究」